

調査速報

国内新車販売統計（2018年2月）

米国向け中心に輸出が失速。国内新車販売も芳しくない。減産リスクあり、新年度は楽観できない状況。

主任研究員  
深尾 三四郎  
045-225-2375  
fukao@yokohama-ri.co.jp

要約

- 2月の国内販売台数（季調値）は増加したが、足元の新車需要は前年を下回る水準で勢いに欠ける。
- 米国向け中心に新車乗用車輸出が失速。海外新車需要に下振れリスク残り、先行きは楽観できない。
- 乗用車在庫に過剰感あり。内外需の減速リスクがあり、追加減産の必要性がある。

1. 18年2月国内新車販売台数は季節調整済年率換算値で516万台と2か月連続で17年実績を下回る

3月1日発表の2018年2月の国内新車販売台数（登録車+軽自動車、貨物車含む）は前年同月比2.2%減と5か月連続前年割れしたが、季調済年率換算値(X-12-ARIMAにて当社試算、以下SAAR)でみた2月の販売台数は前月比1.9%増の516万台と増加した(図表1)。1月に続き2月のSAARも17暦年実績523万台を下回っており、足元の国内新車販売は弱含みで推移している。

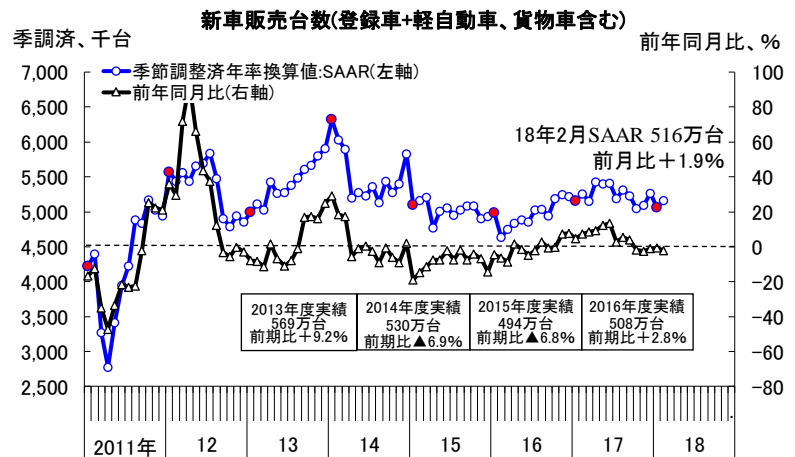
18年前半の新車市場の先行きは楽観できない。買い替え需要の発生が今後販売を盛り上げると期待することが難しいからだ。1月の車検更新車両台数のSAARは前月比で大きく減少し、3か月移動平均値でみるトレンドは減少基調に転じている(図表2)。過去のSAAR実績から試算した車検の理論値は年度末に向けて減速が続く見通しである(図表3)。

新車販売台数の内訳をみると、2月の登録乗用車の販売台数(SAAR)は前月比5.5%減の286万台と、失速した1月から多少持ち直した(図表4)。一方、軽乗用車のSAARは同5.0%減の142万台と減少した(図表5)。軽乗用車と軽商用車を合わせた軽自動車販売台数のSAARは同4.3%減の184万台と減少した(図表6)。貨物車(普通+小型トラック)販売台数の2月のSAARは同2.6%増の43.3万台と増加し(図表7)、3か月後方移動平均値でみたトレンドも増加基調が続いている。17年9月の排ガス規制強化で、その後数か月は8月の駆け込み需要の反動もあり、全需は落ち込んでいたが、その反動減は解消しつつある。

1月の乗用車輸出台数(軽乗用車と中古車を除く)は前年同月比5.2%増と3か月連続の増加となったが、SAARは前月比18.2%減の378万台と大幅に減少した。中国以外の主要仕向け地先への輸出が押し並べて減少し、中でも米国向けの輸出は大きく失速した。輸出先主要市場における新車需要の見通しは楽観できない状況であり、引き続き、新車輸出に対しては下方圧力がかかると予想する。

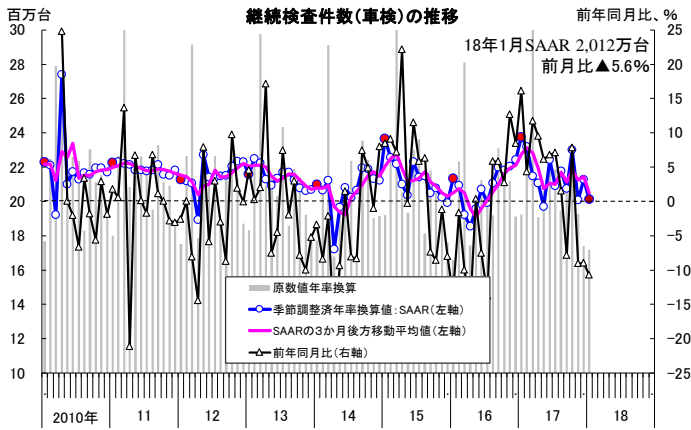
鉱工業指数を見ると、輸出の大幅減に引っ張られる形で減産が行われたが、乗用車生産は「在庫積み上がり局面」が続き、在庫には依然として過剰感がある。国内販売に加え、米国を中心とした海外需要の減速懸念も払しょくできないことから、乗用車の減産リスクはぬぐい切れていない状況である。

図表1 2月国内新車販売(SAAR)は増加



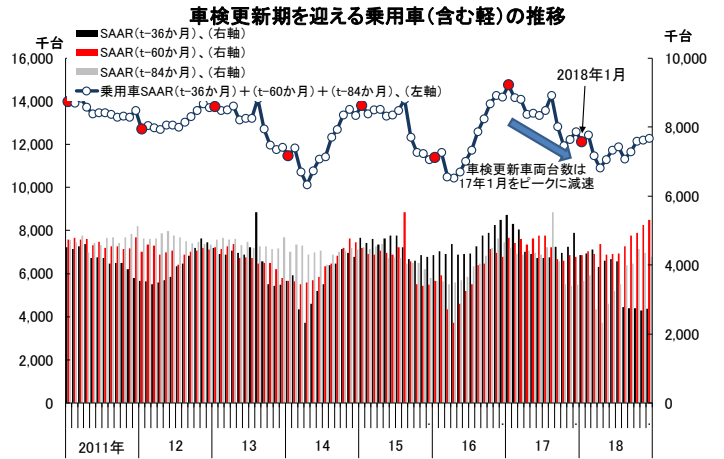
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。  
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
出所: 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会より作成

図表2 車検更新車両台数 (SAAR) は減少傾向



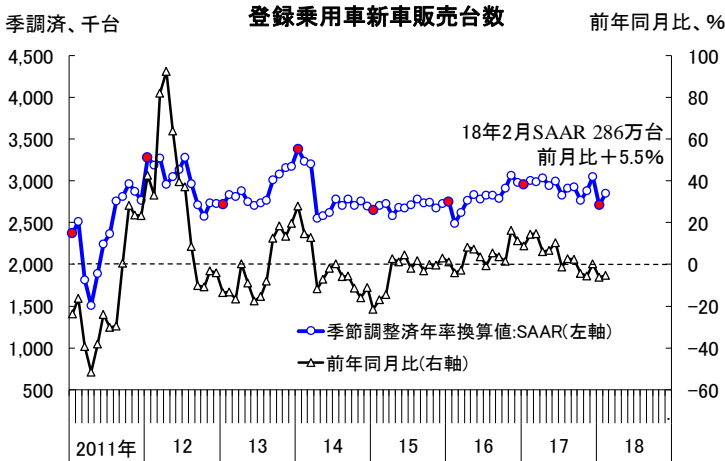
注1: 赤いマーカーは各年の1月実績値。  
注2: SAARはX-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が算出。  
出所: 国土交通省のデータを基に作成

図表3 車検更新車両は年度末に向け減速が続こう



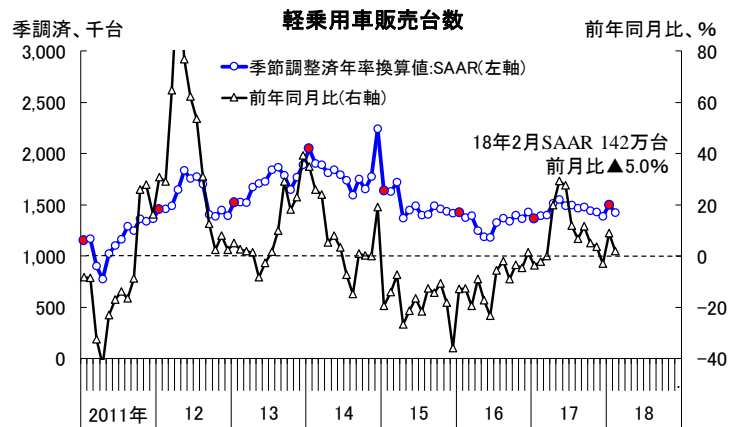
注1: 赤いマーカーは各年の1月実績値。  
注2: SAARはX-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が算出。  
出所: 日本自動車販売協会連合会のデータを基に作成

図表4 登録乗用車販売 (SAAR) が若干持ち直し



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。  
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
出所: 日本自動車販売協会連合会より作成

図表5 軽乗用車販売 (SAAR) は減少



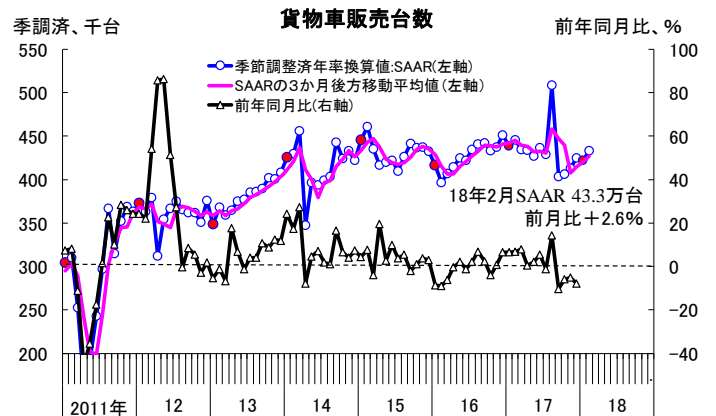
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。  
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
出所: 全国軽自動車協会連合会より作成

図表6 2月軽自動車販売 (SAAR) は184万台



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。  
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
出所: 全国軽自動車協会連合会より作成

図表7 貨物車販売は排ガス規制強化に伴う  
駆込み需要発生への反動減が解消しつつある



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。  
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。  
出所: 日本自動車販売協会連合会より作成

## 2. 1月新車乗用車輸出台数（SAAR）は失速。米国向け輸出が大きく減少

2月27日に公表された1月の乗用車輸出台数（軽乗用車と中古車を除く）は前年同月比5.2%増と3か月連続の増加となったが、SAARは前月比18.2%減の378万台と大幅に減少した（図表8）。輸出先主要市場における新車需要の見通しは楽観できない状況であり、引き続き、新車輸出に対しては下方圧力がかかると予想する。

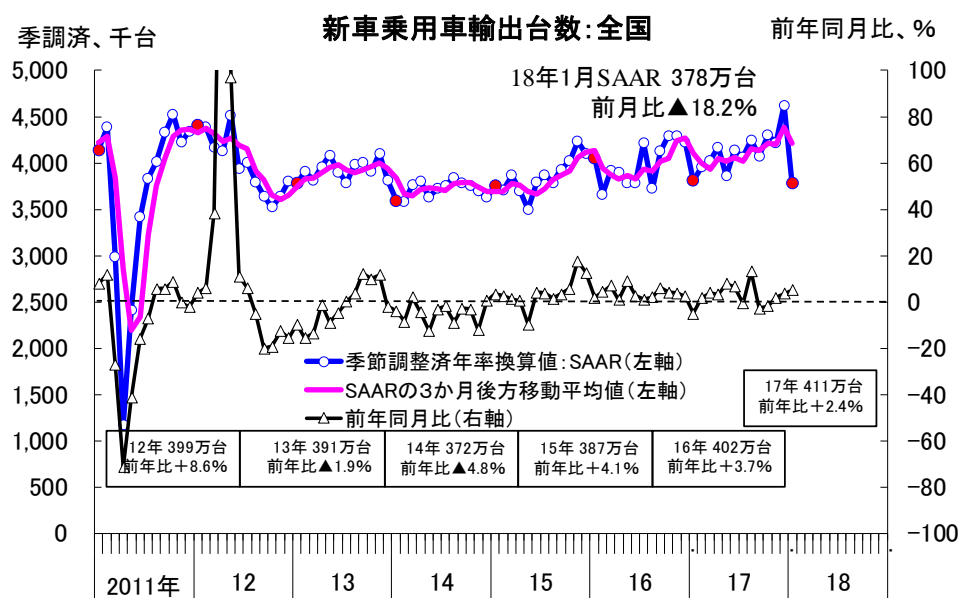
新車乗用車輸出を主要仕向地別でみると（図表9）、中国以外の主要仕向地向けに輸出が押し並べて減少した。

日本にとって最大の輸出先である米国の新車販売台数（SAAR：当社試算）は1月に前月比2.1%増加の1,784万台と増加したが、3か月後方移動平均値で見るトレンドは下向いたままである（図表10）。依然としてメーカー各社による販売奨励金が高水準で推移していることから、足元の需要は脆弱性が高く、米国新車販売にはなお下振れ余地がある。従って、同国向けの輸出が今後切り上がり、輸出の押し上げ要因になると期待するのは難しい。

一方、米国に次ぐ主要仕向け地である欧州では需要に浮揚感がでてきた。1月の販売台数（SAAR）は前月比3.8%増加した（図表11）。欧州での新車需要の回復が、日本製車両の輸出を押し上げることに期待したい。

しかし、世界最大市場である中国の動きは芳しくない。1月の乗用車小売台数は前年同月比8.2%増と堅調だが、例年1月と2月の販売統計は春節の日取りの影響で大きく振れるリスクがあるため、2月の数字をもって需要の強弱を判断したい。流通在庫が急増し、在庫過剰感が生まれたことは要注意である（図表12）。乗用車販売台数（生産に近い工場出荷ベース）では、1月のSAARは前月比10.4%減と4か月連続で減少した。在庫調整をする必要性が高いため、中国向けの輸出に関しても下方圧力が強まるリスクには警戒したい（図表13）。

図表8 1月乗用車輸出（SAAR）は大幅減



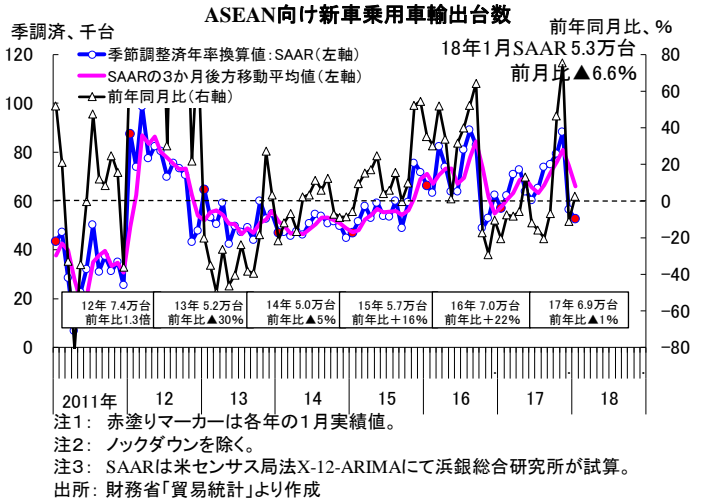
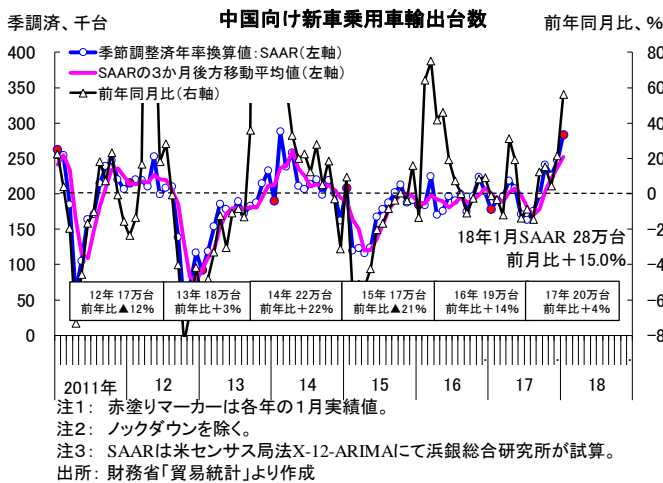
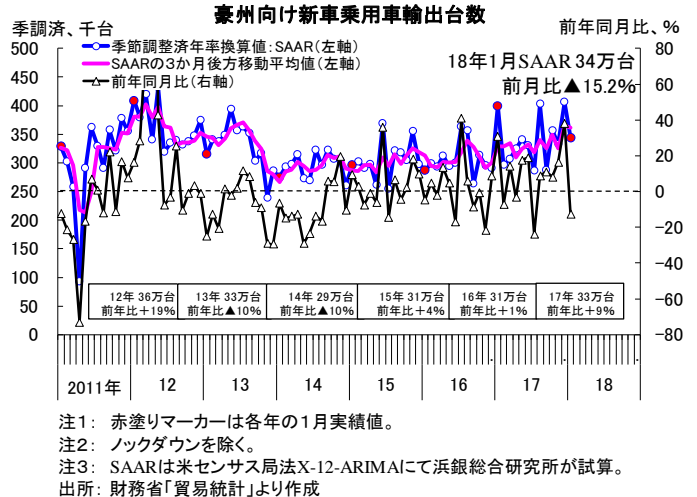
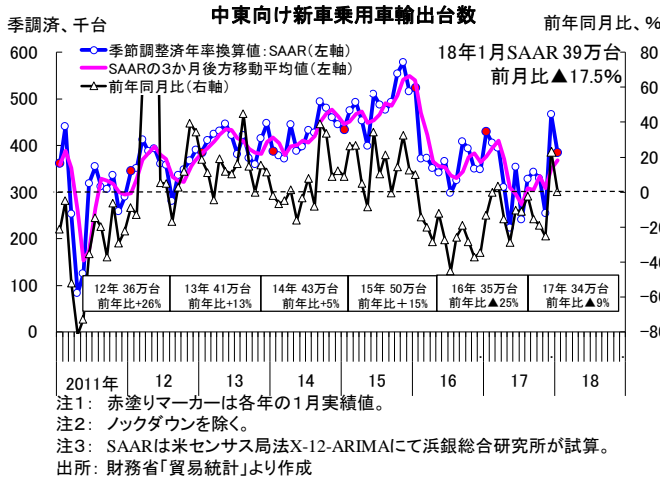
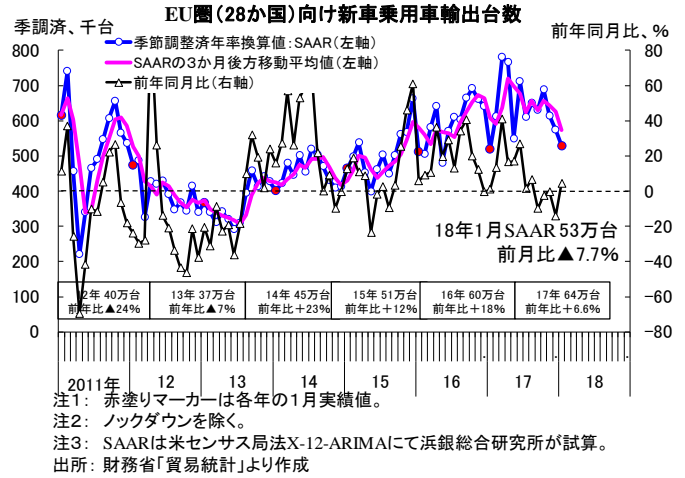
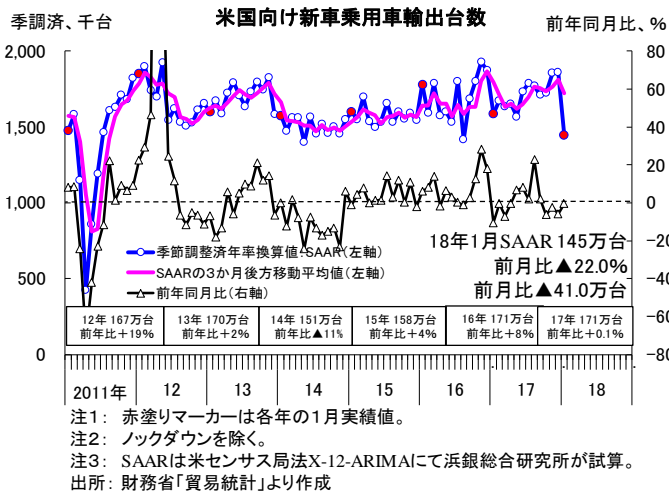
注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2：ノックダウンを除く。

注3：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

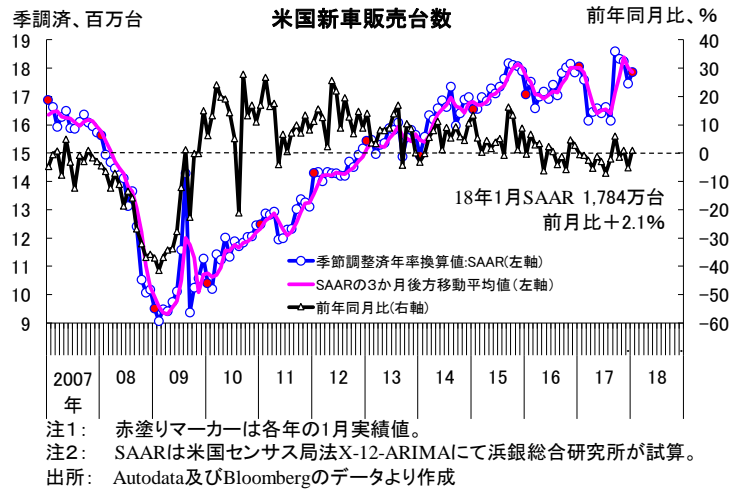
出所：財務省「貿易統計」より作成

図表9 1月輸出台数(SAAR)は中国向け以外は押し並べて減少

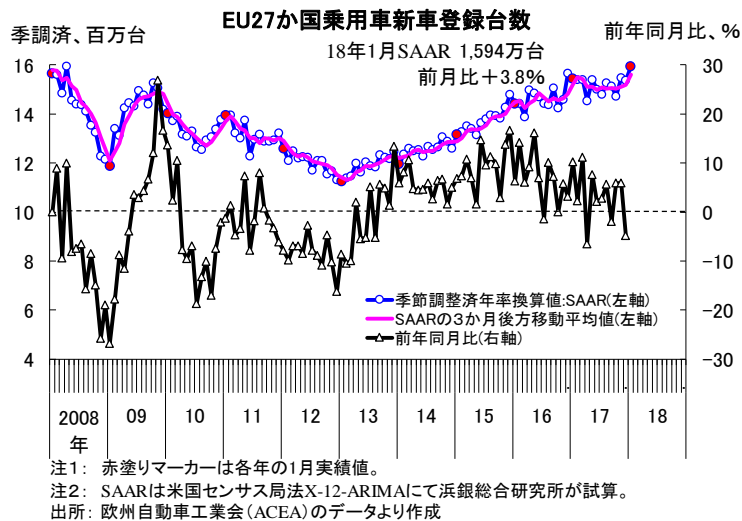




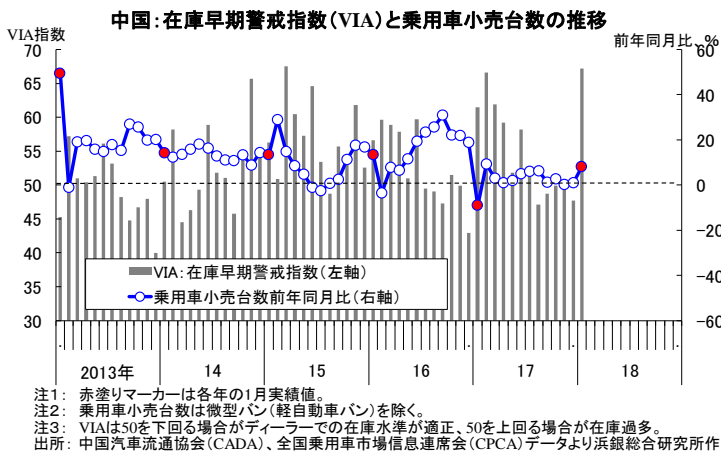
図表 10 米国新車販売は減少トレンド続く



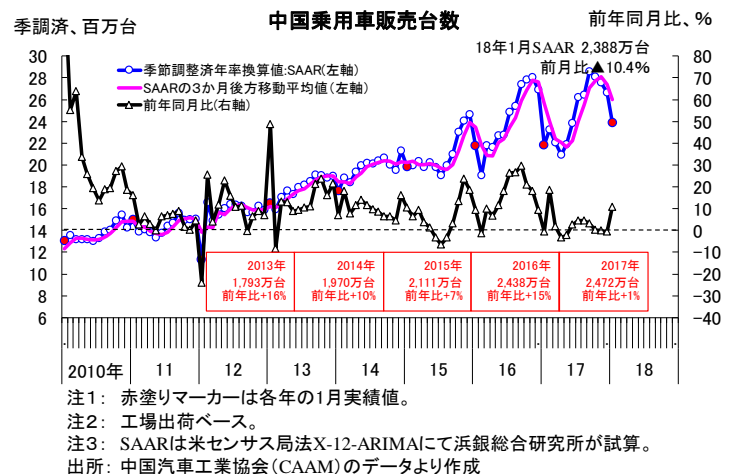
図表 11 欧州の新車需要は上向く



図表 12 中国の乗用車流通在庫に過剰感



図表 13 乗用車販売(出荷) SAARは4か月連続の減少



### 3. 小型乗用車は「在庫調整局面」に逆行

鉱工業指数（速報値）を見ると、1月の乗用車生産は大きく減少したが、在庫は増加した。在庫循環図上では<sup>(注)</sup>、乗用車生産は「在庫積み上がり局面」が続いている。在庫に過剰感があり、生産への下方圧力が強い状況が続いている（図表14）。米国を中心に海外での自動車需要の減速懸念が払しょくできないことから、乗用車の減産リスクには引き続き要注意である。

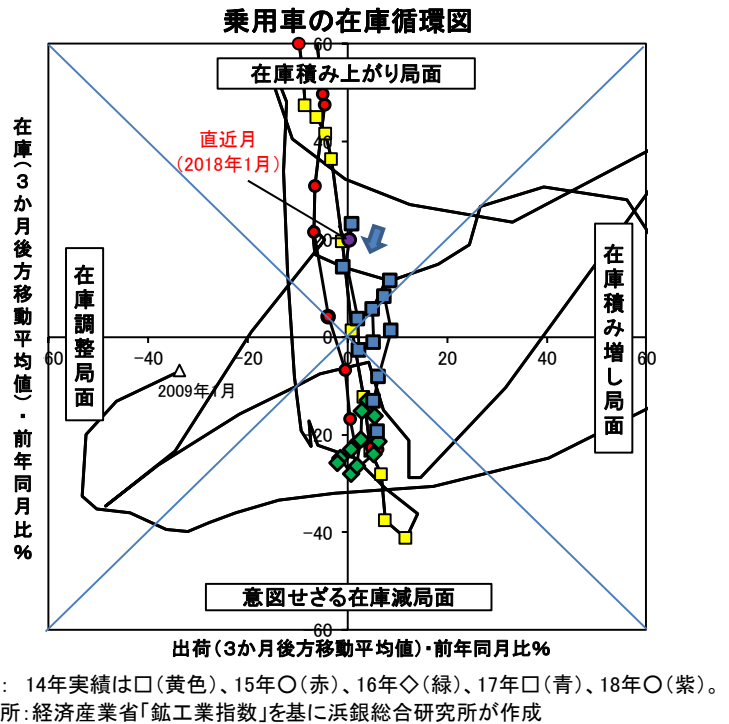
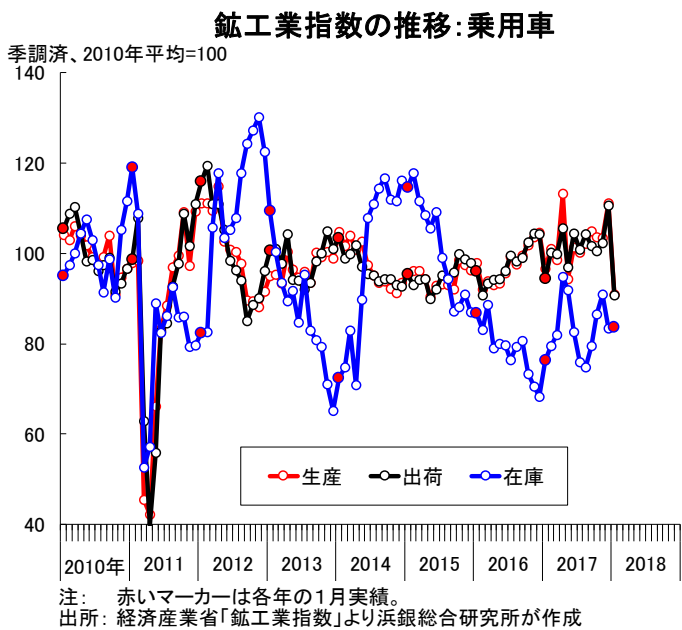
図表15～17では鉱工業指数から、普通、小型、軽乗用車別の各指数（生産、出荷、在庫）の推移と在庫循環図を示している。1月の普通乗用車の在庫は減少したが、生産活動は「在庫積み上がり局面」に止まっている。在庫過剰感がぬぐえず、減産リスクが残る。

1月の小型乗用車の在庫は増加し、生産活動は「意図せざる在庫減局面」から「在庫調整局面」へ逆行した。小型乗用車の在庫は過剰で、減産する必要がある。

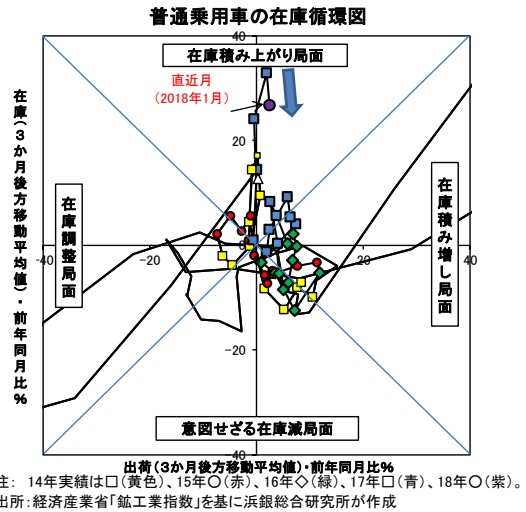
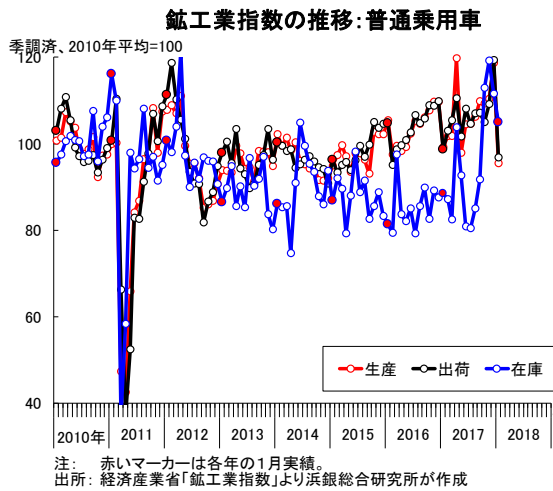
軽乗用車の在庫は5か月ぶりに減少したが、軽乗用車の生産は「在庫積み上がり局面」が続いており、在庫に過剰感がある。足元の軽自動車需要の減速が背景にあるが、目先、生産調整するリスクが高まっていることには要警戒である。

（注）新モデルが発売されるタイミングで乗用車の出荷と在庫は大きく振れるため、各月の出荷・在庫（原数値）を3か月後方移動平均で均してから前年同月比と比較し、それぞれ変化率をX軸（出荷）とY軸（在庫）でプロットしている。

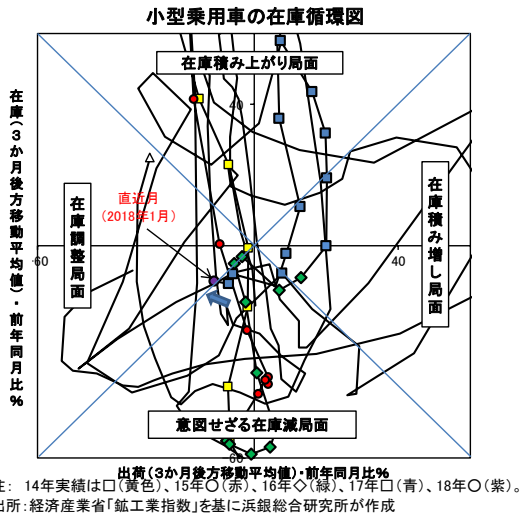
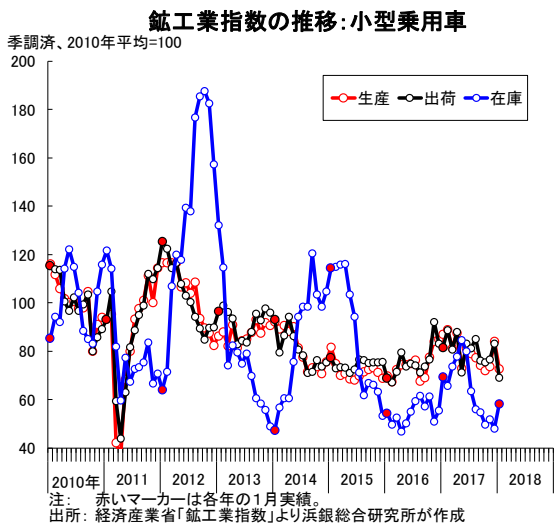
図表14 乗用車生産は「在庫積み上がり局面」が続く



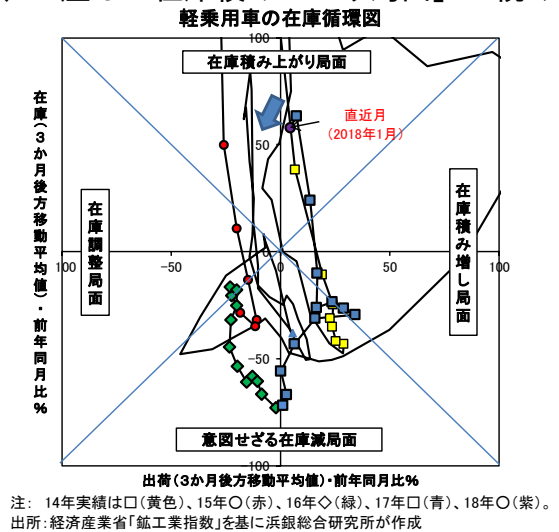
図表 15 普通乗用車の在庫は減少したが依然水準は高い



図表 16 小型乗用車の在庫は増加し、「在庫調整局面」に後退



図表 17 軽乗用車の在庫は5か月ぶりに減少したが、生産は「在庫積み上がり局面」が続く



本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。